

PICK UP NEWS

グリコ、プリッツ自主回収

乳アレルギーの表示なしで

江崎グリコは4月22日、プリッツの一部商品で、乳成分が原材料に含まれているのにアレルギーに関する表示がなかったと発表し自主回収する。対象は昨年3月に発売した「マイルドサラダ」と7月に数量限定で発売した「ラーメン味」と「ホタテ味」計522万個を出荷している。乳アレルギーの子供の親から「プリッツを食べて口のまわりに発疹が出た」と連絡があり、調べたところ乳成分が香料に含まれていたことが分かったという。「製造元の情報に誤りがあった。その後正しい情報が伝えられたが社内で伝達されていなかった」と説明している。グリコは「商品を食べた体調が悪くなった場合にはすぐに病院を受診してほしい」と呼びかけている。

朝日新聞4月22日配信



ヨーグルトに大腸菌 10,500個

東北6県で回収 森永乳業子会社

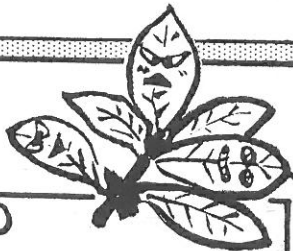
秋田県大館保健所は4月10日、森永乳業の子会社、東北森永乳業が秋田工場で製造したヨーグルトの一部から大腸菌が検出されたとして回収を命じた。回収するのは同工場製造の「カラダを強くするヨーグルト」で賞味期限が2015年4月19日の1万549個が対象。東北6県の森永乳業の販売店を通じ定期配送の契約者宅に配達されていた。森永乳業によると、これまでのところ健康被害の報告はないという。

時事通信4月10日配信



野獣肉の危険性について

野獣肉は主に肉包子虫以外にも旋毛虫や前号で取り上げたカンピロバクター、腸管出血性大腸菌、E型肝炎ウイルス等、重篤な症状に陥ったり、最悪の場合は死に至る病気の原因菌に感染している危険性があります。食用部分でも寄生虫に感染している可能性が高く、十分に加熱することが重要です。



バイケイソウ誤食

東京都では5月1日に世田谷区の男性が群馬県内で採取した山菜を自宅で調理して食べたところ、男性と母親が嘔吐や意識混濁などの症状で入院したと発表した。有毒植物のバイケイソウをギョウジヤニンニクと誤って採取したものとみられる。

皆様からの情報・ご意見をお待ちしております。県央から版では、食品・環境等を中心に情報を発信しております。取り上げていただきたいものや、旬な話題等がありましたら、お気軽にこの連絡先へご連絡ください。一般社団法人県央研究所 県央から版事務局

電話 0256(44)8311
FAX 0256(44)8310
Eメール info@kenoh-labor.jp

台湾政府：日本食品の輸入新規制

5月から産地証明義務付けなど

台湾政府は、福島原発事故で汚染された食品の輸入を防ぐため、これまで実施してきた福島、茨城、群馬、栃木、千葉の5県からの食品輸入禁止に加え、都道府県ごとの産地証明の添付を義務付けた。さらに、一部の都府県で生産・加工された水産品など特定食品に対し、放射性物質検査を実施し、証明書添付すること義務付けた。特定食品の対象地

水産品 宮城県、岩手県、東京都、愛媛県
茶類 東京都、静岡県、愛知県、大阪府
乳製品 東京都、静岡県、愛知県、大阪府
宮城県、埼玉県、東京都

水産品では築地市場を抱える東京都品、被災地から遠く離れた愛媛県も含まれている。茶類では大生産地の静岡と業者の多い3都府県となった。台湾政府は「震災後輸入された6万件以上の食品の放射性物質検査を実施し、2007年時点で台湾の基準以下だが、比較的高い値の放射線を検出した」と説明。対し台湾窓口機関の交流協会は「日本ではモニタリングを実施し、安全な食品として流通している科学的根拠があるのか、あくまで規制撤廃を求めている」と話している。

毎日新聞4月16日配信

「機能性表示食品」8件受理 消費者庁

4月導入の新制度

消費者庁は4月17日、4月に導入された「機能性表示食品」の届け出を8件受理したと明らかにした。新制度に基づき受理は初めて。届け出から60日後に販売が可能になるため、商品は早ければ6月にも店頭に出る。届け出には科学的根拠を示した論文などが必要で、同庁はホームページで公開した。受理されたのは、フアンケルの老眼対策サプリメント「えんきん」や中性脂肪を減らす成分を配合した「健脂サポート」、キリンビバレッジの「食後の生茶」、キリンビールの「ビール系ノンアルコール飲料」「パーフェクトフリー」など。

「えんきん」は、眼精疲労の回復に効果があるとされるアスタキサンチンなどを配合。臨床試験で機能を実証し、新パッケージには「手元のピンポイント調節機能を手元の使用による肩や首筋への負担を和らげる」と機能性表示を施した。この8件を含め4月16日までには104件の届け出が寄せられており、消費者庁は必要な書類が整ったものから順次受理する方針。

YAHOOニュース4月18日配信

コーヒーや緑茶

よく飲むと心臓病などリスク減

19年間追跡調査
コーヒーや緑茶を毎日多く飲むと、心臓病や脳卒中などで死亡するリスクを低下させるとの調査結果を、東京大や国立がん研究センターなどの研究チームが発表した。チームは、全国の40から69歳の健康な男女約9万人を1990年から1999年追跡調査した。

コーヒーや緑茶の摂取量と、心臓病や脳卒中、肺炎など日本人の主な死因で亡くなる可能性との関連性を解析。緑茶を1日5杯以上飲む人は1杯未満の人に比べて、死亡するリスクが男性は13%、女性は17%下がった。また、コーヒーを1日3〜4杯飲む人はほとんど飲まない人よりも死亡リスクが24%減り、特に脳卒中については43%も低下していた。5杯以上飲む人については十分なデータが得られず、明確な有効性は確認できなかった。

読売オンライン5月7日配信

本紙25号で「ジビエ」に関する情報を取り上げましたが、今号では、野生のシカとイノシシが人に感染する寄生虫に高い割合で感染しているとの調査結果を岐阜大学などのグループがまとめたという情報がありました。調査は13年から取り上げ、岐阜県長良川と揖斐川水系で捕獲されたシカとイノシシを調べた。人が人体に取り込むと食中毒症状を引き起こす恐れがある肉胞子虫は、シカで食用部位の背ロースとモモからそれぞれ90%（60頭中54頭）と88%（59頭中52頭）の割合で検出された。イノシシではそれぞれ46%（26頭中12頭）と43%（21頭中9頭）だった。肉胞子虫が原因とみられる健康被害は11年に滋賀県でシカ肉のステーキを食べたグループが下痢や嘔吐を訴えた事例がある。シビエ料理として全国的に利用が広がる中、加熱の徹底など取り扱いは注意を呼びかけている。

読売新聞4月6日配信

観て・聞いて・体験する講演会
ノ口劇場「野呂家にノ口大王がやってきた」
出張公演（好演）・講演承ります
お問合せ・ご用命は 株式会社 県央研究所へ

野草を食べる食中毒 有毒植物「ハシリドコロ」

埼玉県は有毒な野草「ハシリドコロ」を採取し、食べたことによる食中毒が発生したことを4月17日発表した。食品安全課によると、川越市の病院から「野草を食べた」と体調不良となった60代男性が救急搬送された。埼玉県衛生研究所で調べたところ、男性が食べた残品からハシリドコロの持つ有毒成分のアトロピン、スコポラミンが検出された。男性は食べられると思いきや、自宅でゆでて食べた後、寒気やふらつきなどで体調を崩し、病院に運ばれた。

ハシリドコロはナス科の野草で、ふきのとうやギボウシと間違えやすいという。

埼玉新聞4月18日配信

ハシリドコロ「走野老」
山地に生えるナス科の多年草。成長すると高さ約60cmくらい。葉は長楕円形。春は紅紫色の鐘形の花が咲く。有毒植物であるが、根は「真桑根」として薬用とされ、本州、四国、九州に分布。夏先には休眠状態に入ると枯れる。夏から冬までは見ることができない。典型的な春植物。